子育ていいとこくらべ

みんなのしあわせエピソード

子育中のパパママと
交流しよう

知ってほしいな
「男女の体のこと」

発行　平成28（2016）年3月

茨木市こども育成部こども政策課
〒567-8505
大阪府茨木市駅前三丁目８番13号
電話 072-620-1625

茨木市

最優秀賞

妻の優しさで幸せ倍に

夫 34歳（筆者） 妻 35歳 子 8歳、2歳

私の仕事はサラリーマン。満員電車で出勤し帰りは終電近く。子どもは好き。オムツ交換は手慣れたもの。休日は近所の公園やスーパーに行くくらい。保育園の卒園が近づいた長男が文集用に生い立ちや将来を書くカードを持って帰ってきました。生まれてからを振り返り、長男に何になりたいか聞きました。答えは「パパみたいな仕事」予想外で驚き、嬉しかった。喜びを抑えながら理由を聞くと「パパのことが好きやから」気分はもう有頂天。

自己陶酔しながら床につき気付く。すごいのは自分ではなく妻だと。帰りが遅かったり、夫婦げんかして不満があったりしても、子どもの前ではいいパパでいさせてくれていた事。仕事頑張っていると教えてくれていた事。家事・育児・仕事に追われながら私への気配りまでしてくれていた事。だからパパみたいな仕事にと言ってくれた。その言葉で妻の優しさに気付きました。日常の中にある思いやりに感謝し、幸せな気分は数倍にもなっていました。

審査員から
ここがいいね！

「パパみたいな仕事をしたい」という子どもの言葉に隠れている妻の優しさ。それに気づき、感謝できる夫の思いやりが素晴らしい。子どもは親の背中を見て育つもの。子どもの前で夫婦同士の不満を言わず、日ごろから互いに感謝、尊敬し合い、思いやりの心を持つことが、子育ての大切なヒントだと教えられました。

（大学生女性）

優秀賞 ★★

支え合って夫婦で子育て

妻 37歳（筆者） 夫 40歳 子 7歳、5歳、3歳

息子がインフルエンザにかかった…今日から５日間、保育園は出席停止。職場に欠勤の連絡をしなくては。でも、うちは子どもが３人。次々とうつったら、一体何日休むことになる？パート勤務とはいえ、連続欠勤は肩身が狭い。看病の間に、私自身にもうつるかも…。

仕事中の夫に「インフルエンザだったよ」とメールで報告すると「俺、明日と明後日なら仕事の都合つくと思う。それ以降も今から調整してみるよ」。私が仕事を休んで子どもを看病しなくては、と思い込んでいたのでびっくり。でも、夫は「正社員でもパートでも仕事は仕事。優劣は無いよ。都合がつく方が休もう。俺の子どもなんだ、俺も看病するよ」。夫が私の仕事を大切に考えてくれている事が、とてもとても嬉しかった。この人となら、３人の子育てと仕事の両立はできる！と、目の前がパァッと開けた出来事でした。

審査員から ここがいいね！

当たり前のように妻の代わりに会社を休み看病する夫から、妻の仕事への理解、家族の愛情が伝わります。共働き家庭が増え、男性の育児参加が求められる時代、若い世代にとって作品の夫婦は理想的。こんな夫婦像が社会に定着すれば、働きながら子育てしたい女性、もう一人産みたいお母さんを後押しできると思います。

（大学生男性）

優秀賞 ★★

夢の向こうで見つけた幸せ

妻 56歳（筆者） 子 28歳、26歳、24歳

私の子どもの頃の夢は「幼稚園の先生になる事」「背の高い人と結婚する事」「子どもは3人」そんな夢を全て叶える事ができました。結婚生活8年で2歳、4歳、6歳の子どもを残し、背の高い夫は病気で他界してしまいました。

一生懸命子育てし10年が経つと、今度は長女が夫と同じ病気になりました。違ったのは、骨髄が次男と一致した事です。「お姉ちゃんの命が助かるなら移植するで」。次男は骨髄移植のドナーになってくれました。この後長女はすっかり元気になったのです。それまでは家族の健康や幸せが当たり前と思って生きて来たことが、当たり前ではなかったのだと気づき、家族の絆が一層深くなりました。

夢の向こう側にこそ本当の幸せがありました。こんな家族、こんなに素敵ないい子どもたちは、夫がくれた私の宝物です。

審査員から
ここがいいね！

どんな困難にも、前向きに助け合って生きる家族の強い絆に勇気をもらいました。子育ては親と子、子と子をつなぐ「命のリレー」であり、家族を築く尊さを教わりました。（20代女性）

「夢の向こう側にこそ本当の幸せがありました」の言葉に何度読んでもぐっときます。（30代男性）

審査員賞

子どもは宝　みんなで子育て

妻 38歳(筆者)　夫 30歳　子 3歳

子連れで通勤電車の時間。息子のグズグズが始まった。「電車1回降りようかな？」焦る私。

そこに60代後半のおじさんが「どうした〜？」と息子に声を掛け、手を握ってあやしてくれた。嬉しい気持ちと安堵感から気づけば涙がポロポロ…すると30代の女性も話しかけてくれる。「お子さん何歳ですか？」。そしてかばんをゴソゴソ…。女性が食べようと買っていたであろう、パンを息子に差し出し「これ、おいしいよ〜！お母さんも頑張ってね！」と笑顔で電車を降りた女性。おじさんにもお礼を伝えると「いえいえ。おじんが話しかけて、坊っちゃんびっくりしただろうね。ごめんね。バイバ〜イ！！」。

ふいてもふいても溢れでる涙。私の姿はどう映っていたかな。今日も1つ大事な事を学びました。

特別審査員　奥野史子さん評　スポーツコメンテーター・「いい夫婦の日 パートナー・オブ・ザ・イヤー」受賞

私も電車で同じような経験があり、とても共感できる作品でした。娘が急に体調を崩し途中下車した時、心配した女性から声を掛けてもらい、優しさが身に染みました。こうした経験を積み重ねて親の成長があると思います。私も困っている人に躊躇なく声をかけることができるようになりました。

佳作

言葉のさじ加減

妻 46歳(筆者)　子 10歳

「ママの言葉は、調味料だね」。夕飯の支度をしている私をのぞき込みながら娘が言いました。「どうしてそう思うの？」不思議に思い聞き返すと「だってママに怒られると心がしょっぱくなるし、ママに褒められると甘くなるから」。

言葉に詰まりました。幼い時期ほど親の言葉の影響力は大きい。忙しい毎日の中で、娘に対して必要以上にキツイ言い方や、いい加減な受け答えをしてなかったか…。

なんだか、ハンバーグの具材に塩を入れるのがためらわれました。でも、塩は味に旨味と深みを出す。私はいつもより控えめに塩を入れ、娘に言いました。「今日のハンバーグは甘い煮込みハンバーグにしよ！」「やったぁー！」はしゃぐ娘を見ながら、明日から娘にかかる言葉のさじ加減を考え始めました。

審査員から
ここがいいね！

ささいな一言でも、子どもは親の言葉を覚えているものです。一方親自身も叱ると後悔することがしばしば。言葉のやり取りを「調味料」「さじ加減」と表現した点が的を射ており、ユニークです。　(30代女性)

心に響くあれこれエピソード

サンタクロースへの手紙

夫 40歳（筆者） 妻 38歳
子 8歳、4歳

私達は共働きをしています。長女は８歳、次女は４歳。妻は家事に加え、しっかりと子育てもしてくれています。ただ、私はいつも帰宅が遅く、娘達の寝顔を見るのが精一杯。その日々の中で、妻と心がすれ違うこともありました。

昨年、長女が自分に自信を失い、情緒不安定な時期がありました。私達は仕事も手につかず、様々手を尽くしました。結局、原因はわからないままでしたが、周りの方々にも助けられ、長女の心は少し安定しました。その「しこり」を残したまま、昨年のクリスマスイブに長女がサンタクロースへ宛てた手紙で私達は救われました。手紙には優しい字体でこのように書いてありました。「私の欲しいものは『幸せ』ですが、家族からもらったのでもう何もいりません」。私達こそ娘達からいつも「幸せ」をもらっています。私にとってこの家族は、紛れもなく世界で１番大切な宝物です。

審査員から ここがいいね！

ポイントは手紙の宛て先。親に見せるつもりではないので、本音が詰まっています。長女の家族への気持ちは本物ですね。感動しました。
安田真奈さん（映画監督・脚本家）

子育ては親育て

夫 42歳（筆者） 妻 37歳
子 11歳、9歳、7歳、2歳

長女と次女が三女をお風呂に入れる。歌声、泣き声、笑い声が響き渡る。にぎやかなのは安心、安全の合図。二人の姉はもう一人の母。叱られて泣いている三女に、長女が両手を広げてギュッ。笑わせようと次女が変顔、長男も加わって慰める。その言葉、口調は妻と同じ。

悲しい事、辛い事は皆で割り算。長男の背中でお馬さんごっこ。乗って潰れて転がって。涎、鼻汁、ご飯粒、舞に舞って大騒ぎ。楽しい事、嬉しい事は掛け算に。三女が着ている服は長男からの四代目。色は薄くなれど継がれる度に想い出の輝きが増す。仕草口調は似ているが一人ひとりの個性が光る。それぞれの未来に思いを馳せると尽きない。ふとした行動に励まされ、勇気をもらう。子どもを育てているつもりだけれど、実は自分も育てられているとの言葉を実感する事４倍。苦楽共に皆で分け合って。冬の日の寝室。お互いを「湯たんぽ」と呼び合い固まって、狭い狭いと言いながら。明日も皆で一歩前進。

審査員から ここがいいね！

リズムのある文章で読むだけで楽しい日常風景が目に浮かびます。子どもに励まされ、親自身も成長できる喜びは子育ての醍醐味なのですね。（大学生女性）

子どもの発想力にクスッ

妻 43歳（筆者） 夫 44歳
子 20歳、17歳、14歳、12歳、11歳

「スポーツしてる人って、鎖骨が折れやすいらしいよ」
「え！じゃ、うこつ は？」「うこつ？何それ？」
「左骨の反対側の右骨」
このあと、家族は大爆笑に包まれます。

わが子の思いもよらない発想をスマホに書き綴っています。子ども達が幼い頃に使っていた「がじゃいも（じゃがいも）」や「ヘッコポター（ヘリコプター）」という言葉たちも大切にアルバムに残してあります。日常の何気ない一コマで、とても幸せになれます。子ども達の発想は、テレビよりも笑えて、考えさせられます。子育ては、笑いと発見と驚きの連続。今日も「お母さん､カイロ（懐炉）に『レギュラー』ってかいてあるけど､『ハイオク』とか『軽油』もあるの？」という問いに「懐炉は『ビッグ』と『ミニ』よ」と答えながら、クスクス笑いが止まりません。

審査員から
ここがいいね！

子どもの行動や表現には面白さがいっぱい。それに気づいてあげられるのは、親が子どもに優しい眼差しを向けているからでしょう。（40 代女性）

夫婦で子育て　深まる信頼

妻 33歳（筆者） 夫 30歳
子 2歳、1歳

仕事ばかりしていた夫が「家族を大切にしたい」と、1 年間の育休を取りました。「そんなに一緒にいて大丈夫？」と友達から心配されましたが、予想外に素晴らしい時間でした。毎日公園で遊びました。平日昼間に公園に頻出する夫はかなり不審がられていましたが、本人はどこ吹く風でした。

夫が週 3 日晩御飯づくりを担当。カレーと豚汁と肉じゃがの繰り返しでもおいしい。家事も育児もめきめき腕を上げ「第三次成長期きちゃった」というギャグで褒めてほしがりました。息子が初めて歩いた瞬間を一緒に目撃できました。子どもが駄々をこねたとき、もう一人を夫が見てくれる。時には叱ってくれる。私も子どもに優しくなれました。

一番分かってほしい人が子育ての大変さや感動を分かち合ってくれる。それがこんなに嬉しいものだとは。これからお互い仕事に復帰します。今より大変になるけれど、必ず二人で相談し協力し合える。そんな確信、相手への信頼を育むことができました。

審査員から
ここがいいね！

育休を 1 年間取った夫の決断に拍手。前向きに子育てをしている姿も好感が持てます。夫婦で協力し合い、家族の信頼がいっそう深まったと思います。（20 代男性）